

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/09/03

米FOMCに絡んだ思惑が交錯

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	QE3は9月か10月か 予想レンジ: 76.00 ~ 80.50 円	2-3
カナダ/円	↗	上昇ムードも世界景気の動向次第 予想レンジ: 77.50~ 82.50円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



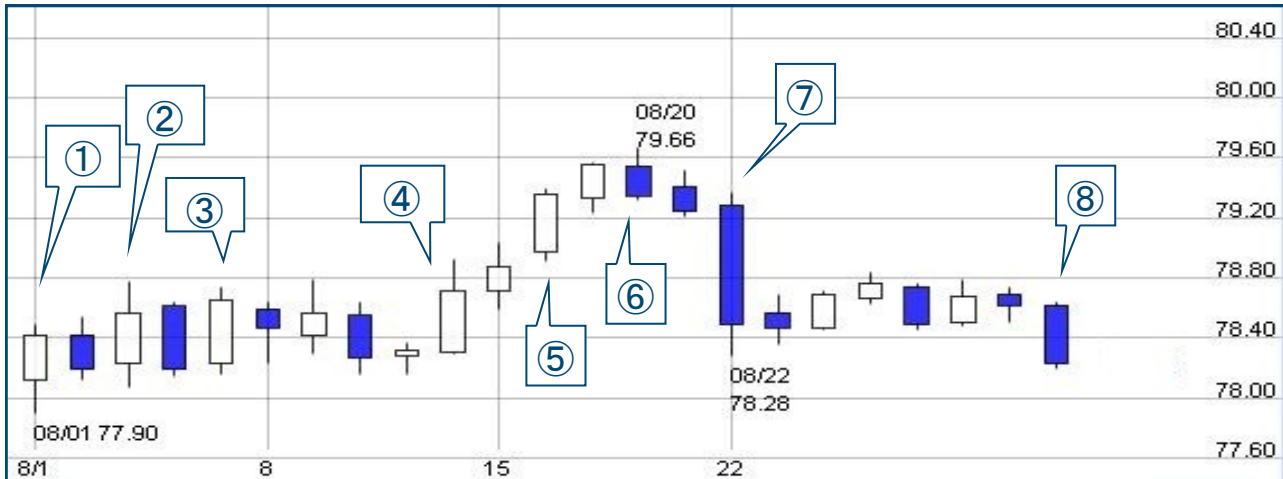
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.12円	79.66円	77.90円	78.23円



①	1日、中国7月製造業PMIが市場予想より弱く、対豪ドルで円高が進むと、ドル/円はストップを絡めながら77.90円まで連れ安した。しかし、NY市場で米連邦公開市場委員会(FOMC)が政策金利の据え置きを発表し、声明では「ここ数カ月の雇用の伸びは緩慢であり、失業率は高いままである」「FRBは動向を注視し、一段と力強い経済回復促進のために必要に応じて追加緩和を実施する」などと、量的緩和について以前よりも踏み込んだ内容だったが、市場で事前に期待されていた異例の低金利に据え置く期間の延長などはなかったことから、発表後はドル買いで反応。ドル/円は78.49円まで値を伸ばした。
②	3日、米7月失業率は8.3%と前月(8.2%)より悪化したが、非農業部門雇用者数が16.3万人増と予想(10.0万人増)を上回り、今年2月以来の大幅な伸びを示した事からドル/円は78.77円まで急騰した。
③	7日、東京市場中に格付会社ムーディーズが「日本の消費増税が成立しなければ格付けにマイナス」「消費増税は日本の赤字削減に必要なが十分ではない」との見解を示したことを蒸し返す形の円売りが出たことや、米国債利回りの上昇を受け、ドル/円は78.74円まで上昇した。
④	14日、欧州株高をはやしてクロス円が上昇すると、ドル/円も上昇。さらに、米7月生産者物価指数(結果:前月比+0.3%、予想:+0.2%)や米7月小売売上高(結果:前月比+0.8%、予想:+0.3%)が市場予想を上回ったことを受けてドル/円はストップを絡めながら78.93円まで値を伸ばした。
⑤	16日、米10年債利回りの上昇を受けてNY市場序盤にかけて79.39円まで上昇したが、発表された複数の米経済指標が市場予想よりもやや弱めの結果だったことでその後は上値重く推移した。
⑥	20日、ゴトー(5・10)日要因を背景としたドル買いの動きが仲値公示後も続くと、ドル/円は7月12日以来となる79.66円まで上昇したが、その後は本邦輸出筋からのドル売り注文の厚さを嫌気して失速。さらに、NY市場に入り、前週末の独誌の「欧州中央銀行(ECB)は無制限の債券購入を約束する事により、ユーロ圏各国の国債利回りに上限を設定する事を検討」との報道に対し、独財務省とECBが否定したことから、リスク回避の動きが強まると、米国債利回りが低下。これがドル/円を押し下げた。
⑦	22日、発表されたFOMC議事録によって「多数のメンバーは持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」「多数の参加者が新たな大規模資産購入は有効と、期待を表明」「多くのメンバーが2014年終盤までとしている政策金利見通しの長期化を支持し、9月の会合まで決定を先延ばしする事で合意」などの議論の内容が明らかになると、早期の追加緩和観測が高まり、ドル/円は急落した。
⑧	31日、バーナンキFRB議長は講演で「労働市場の持続的改善のため必要に応じて追加緩和を実施」などと発言。前回FOMC声明以上に踏み込んだ発言はなかったため、発表直後はドル高に振れた。しかし同議長が量的緩和第3弾について前向きな姿勢を崩したわけではなかったため、すぐに値を戻した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

今月のポイント

8月のドル/円相場は77.90～79.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは前月とほぼ変わらない水準となった。この月は、夏季休暇入りする市場参加者が多く、基本的に手控えムードが強かった。それでも、中旬に入ると米経済指標に市場予想を上回るものが目立った事を受けたドル買いなども重なりジリ高基調を辿ったが、22日に発表されたFOMC議事録によって米国の追加量的緩和観測が強まると、中旬の上げ幅を消す形で失速。ただ、米7月雇用統計や米7月小売売上高などの結果が市場予想より良好だったことを受け、市場では「9月の量的緩和第3弾(QE3)導入は難しいのではないか」との見方がすぐに拡がると、ドル/円に再び方向感がなくなった格好だ。

今月のドル/円相場の軸は、何と言っても12-13日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)になるだろう。QE3導入の如何は、まず米8月雇用統計の内容を見て、ということになるだろう。雇用統計の内容が良好、もしくは市場予想より多少悪い程度なら、9月QE3導入観測は大きく後退し、ドル買いが強まりそう。ただ例え9月のQE3観測が後退しても、バーナンキFRB議長が8月31日に行ったジャクソンホールでの講演内容を見る限り、10月FOMCでのQE3観測は残る公算が大きい。それに向けて、13日発表のFOMC声明の内容やその後に発表されるFOMCメンバーによるゼロ金利解除時期予想、バーナンキFRB議長の記者会見には注目が集まる。また、同様に米経済指標も10月緩和を睨んで重要視されるだろう。

また、欧州債務問題に絡む報道もドル/円の波乱材料となりそう。今月は欧州金融安定メカニズム(ESM)について、ドイツの合憲・違憲判断やオランダの総選挙など重要イベントがある他、ユーロ圏の追加緩和の可能性、問題国の国債購入の可能性などが意識されており、これらを背景にユーロが大きく動けば、ドル/円も連れて乱高下する可能性もある。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 76.00～80.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

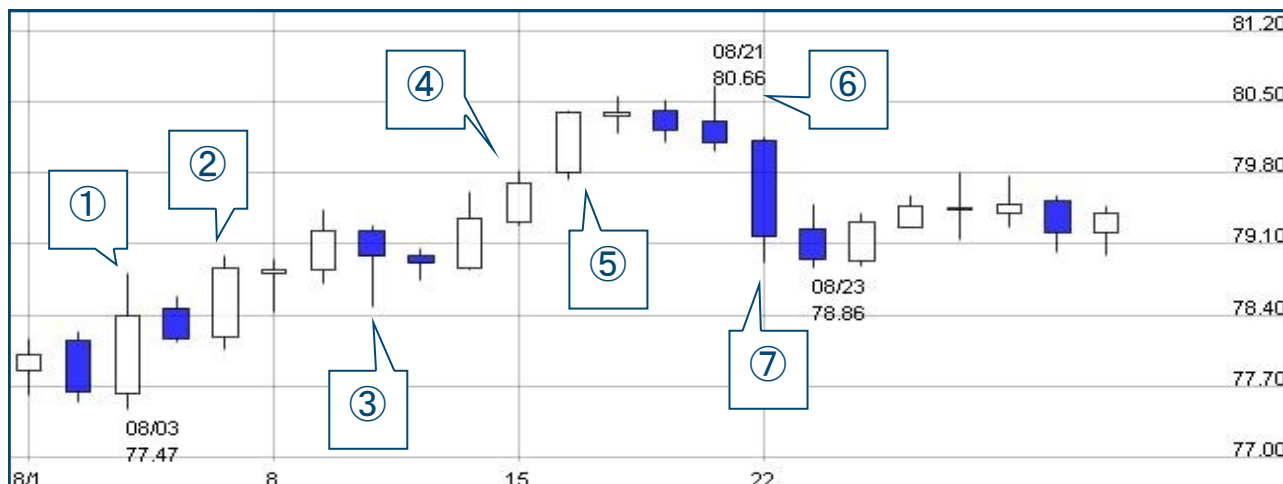
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/19(水)	日銀金融政策決定会合(18日～発表)
9/6(木)	8月米ADP全国雇用者数		8月米住宅着工件数
	8月米ISM非製造業景況指数	9/20(木)	8月日通関ベース貿易収支
	欧州中銀金融政策発表		9月米フィラデルフィア連銀景況指数
9/7(金)	8月米雇用統計	9/24(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨(8/8-9分)
9/10(月)	4-6月期日本GDP・二次速報	9/25(火)	9月米消費者信頼感指数
	7月日経常収支		9月米リッチモンド連銀製造業指数
9/11(火)	7月米貿易収支	9/27(木)	第2四半期米GDP・確報値
9/13(木)	FOMC政策金利発表		8月米耐久財受注
9/14(金)	8月米小売売上高	9/28(金)	9月米シカゴ購買部協会景気指数
	8月米鉱工業生産		
	9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		
9/17(月)	9月米ニューヨーク連銀製造業景気指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	77.85円	80.66円	77.47円	79.40円



①	3日、日経平均の安寄りを受けてカナダ/円は77.47円まで下落した。しかし、NY市場に入り、米7月非農業部門雇用者数や米7月ISM非製造業景況指数が予想を上回った事を好感してNYダウ平均が200ドル超上昇、原油価格も4ドル超上昇した。このリスクオンの流れに乗ってカナダ/円は78.82円まで上値を伸ばした。
②	7日、格付会社ムーディーズが「日本の消費増税が成立しなければ格付けにマイナス」との見解を示した事が欧州市場で蒸し返されてカナダドル買い・円売りが優勢となった。その後も欧米株価の堅調推移を背景にカナダ/円は上昇。加6月住宅建設許可(前月比-2.5%、予想-3.4%)や加7月Ivey購買部協会指数(62.8、予想52.0)が予想を上回った事もカナダ/円の上昇につながった。
③	10日、中国7月貿易収支の黒字額が市場予想を下回り、輸出総額の伸びが大幅に鈍化した事を嫌気して欧州株が下落。さらに加7月雇用統計で、雇用ネット変化が3.04万人減、失業率が7.3%と、いずれも予想(0.60万人増、7.2%)より弱い結果となると、カナダ/円は78.48円まで急落したが、その後は欧米株価の反発につれてやや値を戻した。
④	15日、フラハティ加財務相が「カナダ経済は世界的な景気減速に対する免疫がない」と述べた一方で「カナダドル高はファンダメンタルズを一部反映している」などとカナダドル高容認とも取れる発言を行うと79.82円まで上値を伸ばした。
⑤	16日、米著名アドバイザーレポートが、ECBによるスペイン国債大量購入の可能性を伝えた事や、メルケル独首相が、ドラギECB総裁の「ユーロを守るために必要な事は何でもする」との考えを支持する姿勢を示した事を好感してNYダウ平均が100ドル超上昇すると、カナダ/円は80.42円まで上昇した。
⑥	21日、英紙がアスムセン欧州中銀(ECB)専務理事の見解として「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるために、大量の伊・西債購入を支持」と伝えた事を受けて欧州株が上昇するとカナダ/円は80.66円の高値を付けた。しかし、その後はアスムセン氏の見解を受けてユーロ/カナダでユーロ高・カナダドル安が進んだ事や、NYダウ平均株価が下落に転じた事を背景に80.02円まで反落した。
⑦	22日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「多数のメンバーは、持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」等などとする見解が示された事を受けてドル/円が急落すると、カナダ/円も78.92円まで連れ安となった。

CAD/JPY

今月のポイント

8月のカナダ/円相場は77.47円～80.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.0%の上昇(カナダドル高・円安)となった。上中旬は、米欧の金融緩和期待を背景に主要国の株価や原油価格が堅調に推移する中でカナダ/円も上昇し、一時約3か月ぶりとなる80円台を示現した。ただ、下旬には、欧米の金融緩和期待がカナダドルをはじめとする資源国通貨全体の下値を支えた一方で、中国景気の減速懸念から上海総合株価指数が断続的に年初来安値を更新して下落した事が上値を抑え、カナダ/円は79円台を中心にもみ合う展開となった。

9月についても、市場のリスクに対するセンチメントがカナダ/円相場を左右することになるだろう。5日にはカナダ中銀(BOC)が政策金利を発表(1.00%に据え置き予想)するが、声明では引き続き「金融刺激策の緩やかな解除が適切になる可能性がある」として、将来的な利上げの可能性に触れる公算が高い。一方で、日・米・欧の金融政策は緩和強化の方向を向いているため、リスク選好の流れとなればカナダドルが上昇しやすい地合いにあると言える。しかし、同時にこれはカナダドルがリスク回避地合いでは最も売られやすい通貨のひとつであることも意味しており、米国や中国の景気減速のほか欧州情勢の悪化はカナダドルの売り材料となる点には留意しておきたい。米国景気については、7日の8月雇用統計や14日の8月小売売上高などの景気指標が7月に続き改善を示すかが焦点だ。中国については9日(日)に発表される一連の経済指標が注目される。欧州では、欧州中銀(ECB)が6日の理事会で、問題国の国債利回り低下につながる具体策を発表できるかが目先の焦点となろう。(神田)

(予想レンジ:77.50～82.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/13(木)	第2四半期加設備稼働率
9/5(水)	加中銀政策金利発表		7月加新築住宅価格指数
9/6(木)	欧州中銀金融政策発表		米FOMC政策金利発表
	8月米ADP全国雇用者数	9/14(金)	8月米小売売上高
	8月米ISM非製造業景況指数		8月米鉱工業生産
9/7(金)	8月加雇用統計		9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米雇用統計	9/19(水)	日銀金融政策決定会合(18日～)
9/9(日)	8月中国消費者物価指数		8月米住宅着工件数
	8月中国鉱工業生産	9/25(火)	7月加小売売上高
9/10(月)	4-6月期日本GDP・二次速報		9月米消費者信頼感指数
	8月中国貿易収支	9/27(木)	第2四半期米GDP・確報値
9/11(火)	8月加住宅着工件数	9/28(金)	7月加GDP
	7月加国際商品貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。